天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典

両陛下に心からの感謝捧げる

皇居前広場

11月9日、二重橋前特設会場と皇居前広場で、天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典が天皇陛下御即位奉祝国会議員連盟（伊吹文明会長）、天皇陛下御即位奉祝委員会（三村明夫会長）と日本文化交流財団（田中恆清理事長）の主催により開催され、第1部の奉祝まつりに3万人、第2部の祝賀式典に3万人の計6万人が陛下の御即位を奉祝した。

天皇陛下に万歳三唱をする参列者＝11月9日、東京都千代田区の皇居前広場

奉祝まつりでは、警視庁音楽隊の演奏の後、午後1時25分に開会が宣言され、天皇陛下御即位奉祝国会議員連盟事務局長の木原稔衆議院議員が主催者挨拶、天皇陛下は即位の礼正殿の儀に際して『国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら』と述べられ、日本国および日本国民統合の象徴としての務めを果たすことを誓われた。東日本大震災などの被災者に思いを寄せられ、社会的弱者や高齢者を温かく見守られ、国際親善にも力を尽くされた。国民は天皇陛下への心からの感謝と、皇室をいただく日本に生きることのありがたさを思わずにはいられない」と述べた。

運営委員長である久保田政一経団連事務総長の挨拶の後に、各界を代表して、木原稔衆議院議員、久保田政一経団連事務総長、俳優の藤岡弘、陸上の桐生祥秀、アーティスティックスイミングの乾友紀子、女子体操の村上茉愛、フィギュアスケートの紀平梨花らがテープカット。祝賀パレードは、警視庁音楽隊を先頭に17団体が行進。奉祝神輿渡御も繰り出し、約30団体の神輿、山車、太鼓、踊りが練り歩いた。

祝賀式典では、古屋圭司同議連幹事長が開会宣言。陸海空自衛隊合同音楽隊が開会ファンファーレを演奏し、女優の芦田愛菜氏、歌舞伎役者の松本白鸚氏、経団連の御手洗富士夫名誉会長、山下泰裕JOC会長が祝辞。天皇陛下の水問題の研究の映像が上映され、鬼太鼓座による奉祝演奏、九世野村万蔵による大田楽が奉奏された後、陸海空合同音楽隊によるお迎えの音楽が鳴り響く中、天皇皇后両陛下がお出まし。主催者代表の三村明夫同奉祝委員会会長の式辞に続いて、安倍晋三内閣総理大臣が次のように祝辞を述べた

「即位礼正殿の儀では、上皇陛下の30年以上の歩みに思いを致され、国民の幸せと世界平和を願い、国民に寄り添うお気持ちを伺った。新しい令和の時代、私たちは天皇陛下のお気持ちをしっかりと胸に刻み、平和で希望に満ち溢れる時代をつくりたい」

次にオーケストラの演奏、ピアノソロ（辻井伸行氏）とともに歌手の嵐が奉祝曲・組曲「Ray of Water」（岡田惠和作詞、菅野よう子作曲）を熱唱。森谷真理氏による「君が代」独唱に続く参加者の国歌斉唱の後、天皇陛下がお言葉を述べられた。

「さきに即位礼正殿の儀を行い、即位を内外に宣明しました。そして、きょう、ここに集まられた皆さんからお祝いいただくことに感謝します。即位から約半年、多くの方々から寄せられる気持ちをうれしく思いながら過ごしています。この間、さまざまな機会に国民の皆さんと直接接し、皆さんの幸せを願う思いを私たち二人で新たにしてきました。

その中にあって、先月の台風19号をはじめ最近の大雨などによる大きな被害に、深く心を痛めています。亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、ご遺族、被災された方々にお見舞いを申し上げます。寒さがつのる中、避難を余儀なくされ、生活再建が容易でない方が数多くおられることを案じています。復旧が進み、被災された方々が安心できる生活が、一日も早く戻ることを心から願っています。

ここに、改めて国民の幸せを祈るとともに、わが国の一層の発展と世界の平和を願います。きょうは、寒い中にもかかわらずこのように大勢の皆さんが集まり、即位をお祝いいただくことに深く感謝いたします」

最後に伊吹議連会長の聖寿万歳に合わせ、全員が万歳三唱をする中、両陛下が退出。鬼太鼓座による「令しの一打」、陸海空自衛隊合同音楽隊による「お江戸日本橋」などが演奏され、閉会した。

秋空のもと近江神宮御鎮座記念祭

天智天皇の政に思いを寄せ

滋賀県大津市

佐藤久忠宮司

秋空が広がり少し肌寒さを感じる11月7日、滋賀県大津市の近江神宮（佐藤久忠宮司）で御鎮座記念祭が斎行された。

時刻になって参列者、宮司以下祭員が入場し、所定の座に着き、修祓が行われた。宮司一拝に諸員がならい、御扉が開かれた。権宮司以下神饌を供し、続いて「献納の儀」が行われた。まずは「むべ献納の儀」、次に「創美流献華式の儀」、最後に「清和四條流包丁式の儀」が見事に神前に献納されていった。

宮司が祝詞を奏し、神礼拝笏を手に玉串を奉り拝礼、続いて参列者も玉串を奉り拝礼した後、神礼頒布の儀が行われた。権宮司以下が神饌を撤し、宮司が御扉を閉じて本座に復され、宮司一拝に諸員がならい、祭祀は滞りなく修められた。

佐藤宮司は挨拶で、「本年は4月1日、令和の元号が発表され、5月1日に天皇即位がなされ、10月22日に『即位礼正殿の儀』が行われた。元号の始まりは大化で天智天皇様の時代に初めて制定された。それから切れ目なく連綿として続き、世界に稀な日本の文化としても継承され現代に至っている。この14日には大嘗祭が執り行われ、おおよその天皇陛下の大きな行事が終わり、新しい令和の御代を迎え新しい日本の将来を展開することになる。令和元年を迎え、天智天皇の政務がいかに深いものであったかを常々感じさせられ、近江神宮も日本と世界に対するお勤めは如何にあるべきか、大変な重い責任を感じている」と語り、1350余年前、天智天皇が日本の危機を感じ近江に都を移し、当時日本国の土台を命懸けで築かれた日本創建の大御心を顕彰し、この時に多くの人が力を発揮できるようにと祈念した。

近江神宮の御祭神は第38代天智天皇（天命開別大神）。鎮座は昭和15年11月7日で、歴史としては新しい神社であるが、天智天皇が667年に奈良の飛鳥から近江に遷都した近江大津宮跡地に鎮座したことと、天智天皇に関する伝説や神社が残されていることから、大津宮遷都1350年以上の歴史にもとづく神社と言われる。一昨年の大津宮遷都1350年祭の鎮座記念祭では、今回の「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」の開会冒頭で、古事記「天地創造」の映像にも用いられた画を描いたマークエステル画伯を迎え絵画奉納式も行われた。

全国に16社ある勅祭社の一つであり、4月20日の例祭（近江大津宮遷都記念日）には、天皇陛下の御名代として毎年宮中より勅使が派遣される由緒ある神宮である。天智天皇の御製が小倉百人一首の巻頭に置かれることで歌かるたの祖神としても仰がれ、最近は毎年開催される競技かるたが漫画や映画でも取り上げられ、「ちはやふる」の映画の撮影現場にもなったことで、若い人も数多く訪れている。

境内には時計宝物館が設けられており、漏刻（水時計）と日時計も設置されている。これは天智天皇が漏刻（水時計）をもって日本で最初に時報を始めたことによる。これが6月10日であったことから「時の記念日」もこの日に定められている。毎年6月10日には、「漏刻祭」が斎行され、近江神宮を時の祖神として崇敬する時計関係者が参列する。その他にも日本書紀に燃水（石油）、燃土（アスファルト）が天智天皇に献じられたことが記されており、この燃水（石油）が文献に出てくる初見であり、7月初旬には「燃水祭」も斎行される。

このように近江神宮は天智天皇の日本国家創建の事績を記念した祭祀が多く、全国から多くの崇敬を集めている。

「清和四條流包丁式献納の儀」＝11月7日、滋賀県大津市の近江神宮

社説

冷戦終結30年とローマ教皇来日

教皇フランシスコが日本訪問で語ったメッセージは、日本のカトリック信者や国民だけでなく世界に向けてのものだった。そこから日本と世界人類への愛、冷戦終結から30年の世界を、次の時代に動かそうとするビジョンを感じた人も多いだろう。

広島、長崎で教皇は、「核兵器や他の大量破壊兵器の保有は、平和と安定という望みをかなえる回答にはならない」と核廃絶を訴え、「世界の平和と安定は、恐怖や相互破壊、相手を壊滅させる威嚇に基礎を置くいかなる取り組みとも相いれない」と述べた。

米国とロシアの中距離核戦力（INF）全廃条約が失効し、北朝鮮やイランが核開発を進め、核拡散の危険が深まっている。さらに中国は、米国に対抗する第二の大国として軍事力を増強している。教皇の踏み込んだメッセージには、こうした現状への危機感が背景にある。

いのちと平和の大切さ

唯一の被爆国であり、核廃絶を訴える日本だが、核の脅威が現実に存在する中、米国の核の傘で何とか平和を維持している。力の均衡が崩れると、現状の平和が破壊される恐れがあるため、ただちに核の抑止力を否定するのは現実的ではない。教皇のメッセージは、世界の指導者が目指すべき目標であり、教皇と会見した安倍首相も「核兵器国と非核兵器国の橋渡しに努め、粘り強く『核兵器のない世界』実現へ尽力していく」と強調した。

天皇陛下との会見では、もう一つの関心である環境問題への取り組みなどが語られた。陛下は「日本の人たちに心を込めて寄り添っていただいていることに感謝します」と謝意を述べられた。

若者たちとの集会や東京ドームでのミサで教皇は、いのちの大切さを強調し、参加した一人ひとりを勇気づけ、深い内省を促し、強い印象を残していた。

1989年12月2日から3日にかけて、地中海のマルタで行われたブッシュ米大統領とゴルバチョフ・ソ連共産党書記長の首脳会談で、第二次世界大戦末期、45年のヤルタ会談から44年間続いた東西冷戦は終結した。

それから30年の今年、米ロは互いに不信感を募らせ、核兵器をはじめ新たな軍拡競争に踏み出す危険が増している。その背景にあるのは、冷戦終結に関係なく共産主義の独裁が続く東アジア、とりわけ核脅威の震源地としての中国と北朝鮮である。

教皇は11月23日、タイから日本へ向かう特別機内で、中国、香港、台湾に向け、平和を願い関心を寄せるのは当然であろう。北朝鮮も、平壌がかつて東洋のエルサレムと呼ばれたほど、キリスト教信仰が根付いていた国である。

米国と世界を二分するほどの勢いの中国は、IT技術の進歩をてこに歴史の流れを変え、「デジタル・レーニン主義」と呼ばれる別次元の社会を実現しようとしている。5G技術で画像認識を高めた監視カメラを国中に設置し、個人情報を含むビッグデータを共産党が独占することで、歴史上かつてない監視社会が現出されつつある。

そこでは、経済発展や個人レベルの情報機器の発達で、民主的な社会が実現されるとしてきた欧米的歴史観の常識が通じない。ジョージ・オーウェルの小説『1984年』に登場するビッグ・ブラザー以上の力を習近平政権は手にしかねないのである。

これからの宗教界の使命

教皇フランシスコに期待したいのは、中国に民主化の種をまき、育てる力となることである。アルゼンチン軍事政権の弾圧下で、信仰・思想的には容認しないものの、政府に命を狙われた解放神学の学生たちを助けた経験のある教皇には、その見識と能力があるように思える。今回のタイ、日本訪問のもう一つの目的は、中国・北朝鮮へのメッセージ発信であったのかもしれない。

教皇のメッセージに感応し、世界を再び相互不信のつぼに戻さない努力を、これからの私たち、特に宗教界の使命と考えたい。

灯

「エッサイの株から一つの芽が出、その根から一つの若枝が生えて実を結び、その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。彼は主を恐れることを楽しみとし、その目の見るところによって、さばきをなさず、その耳の聞くところによって、定めをなさず、正義をもって貧しい者をさばき、公平をもって国のうちの柔和な者のために定めをなし、その口のむちをもって国を撃ち、そのくちびるの息をもって悪しき者を殺す。正義はその腰の帯となり、忠信はその身の帯となる。…その日、エッサイの根が立って、もろもろの民の旗となり、もろもろの国びとはこれに尋ね求め、その置かれる所に栄光がある」（イザヤ11・1―5、10）

キリスト教の暦では待降節（アドベント）を迎えた。イエス・キリストの御降誕祭の準備の期間だが、再び来られる主への備えの時でもある。この時、長き「救いの歴史」を思い起こし、イスラエルを治めた王のごとく愛と公正でこの世を治める平和の王の到来を待ち望み、祈る。全世界に祈りの声が響く時、古き年は過ぎ、新しい希望の一年が到来する。（1）

天地

来年はネズミ年。稲作の民にとってネズミは蔵の米をかじる害獣とされがちだが、稲田に巣を作る小さなカヤネズミのように、雑草や害虫を食べる益獣もいる。最適の住処はカヤの茂る河川敷や湿原だが、その減少で数を減らしている▼稲穂が奉納される神社にも、わずかながら狛ネズミがいる。京都市東山の大豊神社はその一つ。889年に宇多天皇の病気平癒の祈願のために創建された古い社だが、狛ネズミが据えられたのは昭和44年のこと。大国主命が野火に囲まれ困っているとき、ネズミが洞穴に導いて命を救ったという『古事記』の記述に依ったもの。正月には、新年のパワースポットとして多くの初もうでがあることだろう▼小さなネズミが十二支の干支頭になったのは、神様の招集に、ちゃっかり牛の頭に乗り、着いたとたんに飛び降りたから、と聞いたことがある。そうだとすれば、こざかしいと叱られそう▼水木しげるの『ゲゲゲの鬼太郎』に出てくるねずみ男は、人間と妖怪との間に生まれた半妖怪で、善悪の間を行ったり来たりするのも人間らしい。鬼太郎の悪友なので、モデルがいたのだろう▼早々とネズミを論じたのは、天地は来年、年男だから。こざかしさを気働きに転じ、周りの人や自然、社会に敏感になり、それを紙面に反映したい。フライング気味に新年の抱負を話したのも、生まれながらの短気のせい。この1年お世話になりました。よい年をお迎えください。

宗教新聞社

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2019
購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀 エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円（税込）
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠 著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078（882）9305 FAX078（801）0006

日本よ、蘇れ 日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
（定価：本体2000円＋税）
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
四六判158頁 定価1,365円（税込）
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分、〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042（751）2558 FAX042（754）1818

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン やさしい和訳
監訳著・水谷 周 訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補、大改訂 定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421